

「もう元のからだには戻れない」

私は現在19歳で、〇〇少女院に入院しています。覚せい剤を使用していたからです。

これまでに、シンナーを吸ったり、万引きをしたり、また、傷害事件を起こして何度も補導されましたが、少女院に入院するのは初めての経験で、厳しい規則の中での生活は大変つらいものがあります。しかし、この生活の中で私は、初めて自分がしてきた事を反省する事ができました。

私が最初にシンナーを吸ったのは中学1年で13歳の秋でした。当時、私の父母は共働きで、二人とも仕事ばかり一生懸命で、兄や私に目を向けようとせず、たまに話をすることがあっても怒ってばかりで、私たちの話を聞こうとせず、そんな両親に反発して不良仲間に入った頃のことでした。友達がシンナーを吸っているのを見て興味が湧き一緒に吸ったのです。すると、「頭がボーッとして嫌な事を忘れてしまう。」ことができ、その後は毎日のようにシンナーを吸っていました。

15歳の春頃、当時付き合いしていた20歳の暴力団組員が、覚せい剤の密売人だったため、彼が持っていた覚せい剤を勧められるまま、注射してもらったところ、シンナーとは比べものにならない位、気分がハイになり、「ドヒヤーン」という感じになったのです。

この男が警察に捕まった後は、数人の暴力団組員と付き合いでは別れる事を繰り返し、その人達から覚せい剤を注射してもらっていました。

その内に、ほぼ毎日自分でも覚せい剤を注射するようになり、本当の中毒になってしまいました。16歳になった頃、ヤクザの汚い部分が目に付き始め、彼らとの付き合いをやめたのですが、覚せい剤と手を切る事はできず、自分で、イラン人から覚せい剤を買い、注射していました。

覚せい剤をかうお金は、援助交際でお金をもらったり、そのほかにも、ファッションヘルスで働いていました。そんなことをして手に入れたお金のほとんどを覚せい剤に使ってしまいました。こんな生活が3年も続いたのです。

私は、シンナーのせいで歯がぼろぼろになってしまいました。シンナーは、覚せい剤を使用するようになって止める事ができましたが、覚せい剤を4年間くらい使い続けていると、逮捕される前頃には、短気になってすぐ他人と喧嘩したり、「隣の家の人が私の家の中を覗いている。」「神社に置いて在るキツネが動き出し、わたしを襲ってくる。」等の幻聴や幻覚を経験しました。

私が覚せい剤を買っていたイラン人が麻薬取締官に逮捕され、私自身も捕まりました。

結局、何百万ものお金を覚せい剤につぎ込んで私が得たものは、その日その日の嫌な事を忘れた事、大勢の男達と付き合っ3回も中絶し、もう子供を産めない体になった事の2つだけです。

この少女院に両親がたまに面会に来ます。まだわだかまりが全部消えていませんが、前よりはずっと心が交う気がします。覚せい剤のない生活で、やっと将来の事を考えるようになりました。でも、壊れてしまった昔の健康な体は決して戻らないのです。

(19歳 女性)